

NEWSLETTER

No022020

[02]がエクスパイを迎え[03]がF1に循環します。
順調に進んできていることと思いますが、今回のサイクルでは1月末~2月頭のRSC(“リバース”)によって一時的に大きなストレスを受けたがいっしょだと思います。資金が大きくなるとそのようなストレスは心理的な負担になりますので、**△ABC 関連あるいはF1 関連のハンドへの集中は避けてハンドテーブル(トライアングルの構造を広く使いF1、F2、F3、F4、F5、F6 へのハンドの時間配分を考慮してください。**時間の差による”invisible profits”(見えざる利益)をうまく利用するので

△ABC と△LMF を比較してみましょう。
△LMF=△ABC とイメージしてみましょう。
それらが同じならどちらを実行したいと思うでしょうか。
数値構造が作る波が穏やかな方を選んだ方が、ストレスが小さいです。

資金効率が悪い?
本当にそうでしょうか?
私のチームは当初の3年間ほとんど exclusive に△LMF を攻略していました。前日号で紹介したCC/PP が中心でした。残りが 10C-1/P-/25C+1 や C-/P-ですが、当初はそれらもF6 が中心でした。そのような地味な攻略法によってこの事業の基盤を作りました。

会員の方の中には△DEF を対象としたハンドだけで成功し生活している人もいます。△ABC に近づかないというポリシーを持っているようです。その方にとって△ABC は構造を理解するための指標のようです。

「△ABC に近づくな！」などというつもりはありません。
しかし、ここへの過度の資本集中は事業を長く継続する意味でも避けるべきです。この事業は長く継続出来る事が成功への道になります。

F6 のハンド(最も時間の長いハンド)でも十分効率的なのです。

「時間」の存在を忘れないことです。
ナンバーオペレーションを事業して成り立たせている最大の要素は「時間」です。

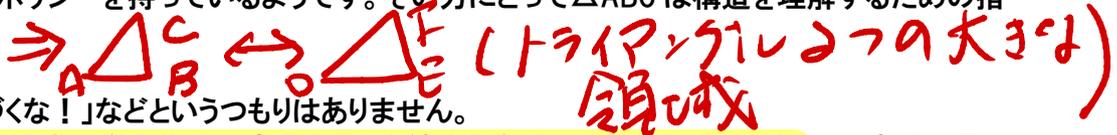
ナンバーオペレーションについてこれまで私は多くのことを伝えてきました。
しかし、それでも、まだ、全体の 10%程度にすぎません。あるいは、それ以下かもしれません。何かを意図的に隠してきたわけではありません。日々のレポートに簡単に書ききれないのです。それに、理解を確認しながら重要なことを繰り返す時には振り返りながら進んでいく必要があります。同じ内容を説明しているような箇所でも異なる角度から説明を加えていることもあります。異なる角度から見ることで同じハンドがまるで違って時に数字の本質が見えてきます。

ナンバーオペレーションに良い意味でハマった方にとってそれがもはや単なる金儲けの道具でないことが実感できると思います。お金以上の財産になりつつあると思います。もちろん、利益を上げることを目的にしています。「利益を上げること」という表現より「手持ちの数字を増やすこと」という

“資金配分”により
可、分散という
ことは使いこな
(理由があります)

F6 → F5 → F4 → F3 →
F2 → F1 の教育的意味は?

(1/3)



教育的原理では水割度上
の問題から可。

「時間」とは
何? どの最
大に
可

いざ-1/2-の数字の両岸明、OTV/ITV, ITV/ITV, OTV/OTV
時間の教育的意味
1 の組み合わせ、Cash 価値
ITV と F 他、Cash の教育的意味 etc.